

目 次

平成31年 3月12日（火曜日）第2号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出 席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○一 般 質 問	柏倉議員 -----	3 頁
	・ 町内に循環型バスを走らせては	
	村川議員 -----	7 頁
	・ 人口減少問題に取り組む「長万部町創生総合戦略」について	
○休会の決定	-----	11頁
○散 会 宣 告	-----	11頁

平成31年第1回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 平成31年 3月12日（火）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開 議 日 時 平成31年 3月12日（火） 午前10時00分

◎応 招 議 員（10名）

1 番	北 川 佳 嗣	6 番	大 谷 敏 弥
2 番	長 崎 厚	7 番	村 川 毅
3 番	辻 紀 樹	8 番	角 健
4 番	高 森 功 治	9 番	柏 倉 恵里子
5 番	橋 本 收 司	10 番	辻 義 雄

◎不応招議員 なし

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木 幡 正 志	水道ガス課長	中 里 博 也
副 町 長	佐 藤 英 代	出 納 室 長	小 川 洋
総 務 課 長	本 前 武 広	消 防 長	中 田 義 之
まちづくり新幹線課長	加 藤 慶 一	病 院 事 務 長	田 辺 知 行
まちづくり新幹線課参事	岸 上 尚 生	教 育 長	近 藤 英 隆
税 務 課 長	中 山 裕 幸	教 育 次 長	岡 野 喜 美 雄
町 民 課 長	佐 藤 剛	教育委員会事務局参事	佐 藤 修
保 健 福 祉 課 長	岡 部 忠	選挙管理委員会書記長	本 前 武 広
産 業 振 興 課 長	対 馬 政 宏	監 査 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
建 設 課 長	神 野 隆 之	農業委員会事務局長	対 馬 政 宏

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
議 事 係 長	増 田 理 恵
議 事 係	岡 田 幸

◎議事日程

日程第 1

一 般 質 問

◎開議宣告

10時00分 開会

○議長（辻義雄） ただいまの出席議員は10名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程はあらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎一般質問

○議長（辻義雄） 日程第1、一般質問を行います。質問通告書は事前に配付しておりますが、質問者は2名、質問件数は2件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と、終了時にブザーを鳴らしますものであらかじめご承知おきください。それでは順次質問を許します。

柏倉議員。

〔議員（9番 柏倉恵里子）登壇〕

○議員（9番 柏倉恵里子） 私は1点質問させていただきます。町内に循環型バスを走らせては、1年前の3月定例会でも一般質問しましたが、町内を循環する交通手段が必要です。町民からは月1回の運行では用が足りず、また、帰りのバスまでに時間がありすぎるとの声が聞かれます。前回の答弁では、老人福祉バスに職員を乗せて運行コースと利用頻度の研究をしているとのことでしたが、その結果はどうだったのでしょうか。また、新たな取組をお考えでしょうか。以上です。

〔議員（9番 柏倉恵里子）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 町内に循環型バスを走らせては、との質問にお答えをいたします。

1点目の研究の結果につきましては、老人福祉バスに職員が同乗し、7路線の利用人数や駐車場所、運行時間、利用者の意見などを調査いたしました。その結果、平成30年4月から国縫方面の2路線に長万部町立病院、長万部駅、長万部町役場の3カ所の駐車場所を、双葉・蕨岱方面、静狩方面の路線にならい追加いたしました。

その後も利用者の要望により、国縫地区において9月には停車順序の変更、11月には駐車場所およびルートの変更、陣屋・高砂・温泉地区においては12月に駐車場所およびルートの変更を行っております。

2点目の新たな取組につきましては、循環型バスの導入については、現時点では考えておりません。しかしながら、高齢者が増加する中で、交通手段の確保は切実な問題だと認識しておりますので、長万部町全体の交通体系について検討していかなければならないと考えております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 何点か質問させていただきます。まず、月1回の老人福祉バスの運行なんですけれども、大体月平均どのくらいの利用者があるものですか。

○議長（辻義雄） 岡部保健福祉課長。

○保健福祉課長（岡部忠） 福祉バスの利用実績でございますが、平成29年度の実績でご報告させていただきます。7方面ございまして、それぞれ豊野方面、こちらは豊野・南栄・新開町を走るルートでございまして、平均で4.3人となっております。もうひとつが2番目が蔵岱方面、こちら蔵岱・知来・双葉・美畑・栗岡を経由しますが、平均で9.3人。それから共立方面、こちらは共立・栄原・旭浜・元町・本町・大町・曙きまして、平均で4.6人。静狩方面、こちらは静狩ですが16.8人。豊津方面、豊津・豊野・花岡・中ノ沢・大浜ですが、平均で10.4人。それから国縫方面、こちらは国縫地区ですが平均で9.7人。そして陣屋方面、陣屋・温泉・高砂、こちらの方は平均で1.9人となっております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 蔵岱方面、静狩方面は多分、老人福祉センターまで行かない便も入っての人数だと思いますけれども、結局、老人福祉バスに乗る人の部分だけの調査なんですよ、これね。町民の方を抽出して、例えばどう考えてらっしゃるとか、こういうバスがあればいいよねっていう意見は全く聴取されていないわけなんですよ。だから本当にこの少ない利用者の中から、出た意見だけで、今この老人福祉バスを回してらっしゃるということなんですよ。今私たちが町民からいただいている声とすれば、その老人福祉バスは、温泉にしか行かないという捉え方が、まずされています。4月からの老人福祉バスをご利用くださいのチラシも入りましたが、これには役場に行きますよとか、それから病院にも停まりますよとかっていうことは一切書いてない。これは、このバスをそういうふうにご利用できるということ、まず町民は知らない状況だと私は思うんですけど、いかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 老人福祉バスの使命ってのは、また別な角度で見なきゃいけないんでね。移動町長室でこの老人福祉バスの利用についての要望ってのは結構やっぱり出てくる問題なんですよ。老人福祉バス、もちろん高齢の方々が移動するための手段として、老人福祉センターを活用していただくことが、主の利用の目的であるために、一般の町民の方々がどんどん乗れるかっていったらそうではない。そこはやっぱり勘違いしないでほしいなと思っているのと、結構、運行して宣伝をPRもし、例えば双葉の老人クラブの方が、双葉の振興会館にただ集まるだけで40分くらいかかる。それで、その双葉で移動町長室のとき話が出たときに、だったら、老人福祉バスが運行される機会を乗じて、例会を開かれたらどうですか、そういう提案も実はさせていただいております。これがひとつの老人福祉バスの運行の今の実態なんですけど、今もちろん乗車人数の平均の部分も出ましたけれども、町中の方の運行の状態にしてはやっぱり利用者が少ない。こういう状況になってる。これだけ結構停車場変えたり、ルートを変えたりして、民業の圧迫にならないように、気をつけてやらせてもらってるんだけど、それは利用率が伸びてないことの本当に明確に出てるんで、毎月広報に掲載をして、そして全戸配布させていただいてる。それが今の現状です。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 私は、老人福祉バスを利用してほしいということではなくて、全く老人福祉バスじゃない別な考え方の循環型バスを導入してはという質問で、実は前回もその質問だったんですけど、たまたま町長から出てきた答弁が、老人福祉バスを利用して、今調査をしているところだというのが、去年の答弁の中であって、老人福祉バスを多分町長は利用したかったのかなと。私は思うんですけど。確かに老人福祉バスだと今の状況だと、町に行きますよという大きくや

っぱり宣伝をすることはできない。その難しさもよく分かっています。だから私が思うのは、老人福祉バスから離れて、全く違う形の循環型を作るべきだと思っております。もちろんそれには運行料、つまり、私が思うにはワンコインでどこまでもいけるような、町内を回る、ルートは当然考えないとならないんですけど。私は全て何でも無料でやればいいっていうものではないと思うんです。やっぱり町民には、お金のかかるものですからご負担をいただかなきゃないと。そうすると、これは役場としては収入は得られないわけですね。だからやっぱりそこはまた別な考え方をして立ち上げていかなきゃないとは思いますが。私はある程度町民の方にもご負担をいただいて、乗っていただくような、そういう交通体系を確保しなきゃいけないと思うんですけども、そこら辺はどうですかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 行政が有料で路線バスなり循環バスを運行するとなれば、これ陸運局に全部届けて許可もらわなきゃいけない。それと同時に、やっぱり老人福祉バスってのは、高齢者の足として利用していただきたいということの考え方もあるし、そして今タクシーチケットもまた来年度も配布予定になってる。ここら辺の整合をどうやってとるのか。例えば有料でやった場合。そしたらタクシーチケットいらないんですかって話になってくる。だからそこら辺のともやっぱりきちっと整合性を取るために、研究も重ねなきゃいけないし、ルートも含めて例えばこれから交通弱者の免許返納者の足の確保、それから買い物難民の救済、こういったものも含めて、考えていくとすれば、やっぱりそこは民業圧迫ならないように、業者さんが適宜にコースを変更しながら、予約も取りながらそうしたバスの巡回も考えなきゃいけないのかな。ただ、ニセコの例を一昨年お話ししたんですが、やっぱりそこは民業でやった難しさで、1年か2年で止めちゃったということもあるんでね。だからそういう廃止をするために立ち上げる事業より、長く使う事業、これをどうやって使っていくのか、これも長万部の場合は、函バスもあればニセコバスさんもある。長万部ハイヤーさんも町中運行してるってことも含めて、やっぱりそこはきちっと整理を付けてやらないと、完全にバスも、ニセコバスも函バスさんも長万部入って来てないっていう条件があるんであれば、それは当面長万部の交通体系の悪化っていう部分を考えると、真剣に捉えて考えなきゃいけない。今の段階でそう汲々してる話じゃないのかなと思うし、もっとやるとすれば、したら75歳以上でなくて、それ以下なるのかいって言ったときは、免許返納者でもなければ、その車を持ってない人も利用できるような範囲になってくるってことも含めてね、それはやっぱり高齢者の弱者対策ってことを常に捉えてやらないと、このバスの事業ってのはなかなか難しいなと。ということで、先ほども今現時点では考えておりませんという答えでしたけれども、これからやっぱり高齢者の増加に伴って、そこはそこきっちり事業として立ち上げていく方向も見出しながら、検討していかなければならないのかなと思ってます。以上です。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 大変貴重な意見を伺えたかなと思うんですけども、やっぱりタクシーチケットはもちろん使われてる方はとても大切に、決めて使われてます。ここ行くときとここ行くときはタクシーチケットで。あるいは買い物行くときは、最初は物を持ってないので行くときは徒歩で行きます、帰りは荷物が増えるのでタクシーチケットを使いますっていうように、すごくすごく大切にタクシーチケットは使われております。で、先ほど町長がおっしゃったように、老人福祉バス、これは限度があるのかなと思ってますよ。老人福祉バスっていう名前で運行していくには、先ほど言ったように、老人福祉センターを活用していただくのが本来の目的ということがあ

れば、それ以外の活用するのは本目的から外れていくわけで、老人福祉バスでの町内循環をして、無料で人を乗せて降ろしてっていう、そういうことは難しいのかなと私は考えるんですね。だからこの老人福祉バスを使っては限界がある、と考えます。もちろん業者さんもタクシー業者さんもちろっしゃいますので、そこはやっぱり民間との話し合いもしながら、どういう運行がいいのか。例えば委託事業としてお願いして、そこ回していただくのか、あるいは町の事業として立ち上げてやるのか、そこはまた考え方が色々あると思いますけど、とりあえず町長のところにも声はたくさん届いていると思うんです。なので、去年も考える、そして今回も検討するということで、1年間経っても、福祉バスの運行には多少なりとも民意が反映されてる部分もありますけど、やっぱりこういうふうにしてチラシを打ったときには、そういう場所に行くということは書けない。だと思っんです。書いてないから。病院も停まりますよ、利用してください、とかってことは書いてないわけですからね。だからこれは書けない理由があるのかなとは思っんです。だからやはりみんなが利用できるそういう体系を考えていかなきゃない、だから作り上げていくのであれば、やっぱりそういう委員会でも町の人を入れたそういうものも、あるいはまたまちづくり推進会議等で話し合える内容であれば、そこに託してもいいですけども、なにかしらやっぱり先に進んでいかなきゃない、今だって高齢者の方は実際困ってらっしゃる方はいるわけで、今そんな汲々に困ってないという町長の答弁もおかしいと思っしますし、だからこれはそんなに長い時間をかけてやることではなく、ある程度やっぱり検討委員会なりを立ち上げて、私はやって、取りかかっていくときに来てるんじゃないのかなと。私はそう思っしますけども、町長お考えあればお願っします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 先の答弁でも述べたとおり、老人福祉バスはこういう運行しかしませんよというのは、限定して考えてるわけじゃないんです。利便性を高めるためにどうやったら利用する人が利用しやすくなるのか、どのコースを走ったら利用者が増えるのかということも含めて、改正をしながら利用者のためにサービスを進めてくっっていうことはやっっております。全く変更がないということではなくて、今ちょっと運行予定日程表見せてもらっただけですけども、これで悪ければ今度先ほど言ったとおり、この便は病院にも寄りますよ、長万部の駅にも寄りますよと言った方向で書き込んでいくことも可能かなと。そう思っっているし、もう少し利用者を増やすための努力は今後続けていかなきゃならないというのは当然考えていかなければならないひとつの方向だと思っしますので、ひとつ協議させてください。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 書けるのであれば、それは書いていただきたいですし、この月に一度っっていうのはいかななものかということなんです。老人福祉バスをこれからもまだ続けて、そこに乗る人を増やしていきたいという意志があるのであれば、これは月1回というのはまず使っづらい。そして、老人福祉バスで老人福祉センターに行き、そしてその人方が入浴終わっって、迎えに行く時間でないと多分帰りの便が出ない。だったら、入浴に行かない人方は、結局この帰りの便には乗れないですよ。時間がありすぎるので、別な方法で帰っってらっしゃるのか、時間があってもほかで時間を潰されながらその時間がくるのを待っってらっしゃるのかは分からないですけど。これは本当に便利という部分ではちょっと不足じゃないかなと思っんですね。だから本当に乗る人を増やす、これを利用してほしいっことであれば、月1回というのはちょっと私は即してないかなと、町民の意志に反映してないかなっという気もしますし、あと、お迎えの時間とか、それからまた連れて行く時間も1回朝行ったら帰り1便じゃなく、もう少し、また考えていただけるような形を

取れば、もう少しまた利用が増えるのではないかなという気がしますけども。どうでしょう。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 乗り合いバスなんでね、その個人個人の用件に合わせて運行するってのは、それはちょっと無理かなと。実は静狩方面の人も双葉の方面の人も、帰りの時間、役場のロビーで談笑してるんですよね。そのときに聞いたのは、「こんなに長いこと待ってるなら、バスの時間早めるかい？」って言ったら「やめてほしい」って言われた。「何故？」と言ったら「家へ帰っちゃうとせっかくみんなでこういう話し合う楽しい時間がなくなる」と、「ここにいてこうやってみんなで話することが非常に楽しい」と。1回夏場に麦茶を提供したことがある。ポットに入れて冷たいものどうぞって。そしたら「結構です」っていわれた。「何故？」ったら「全員用意してきてる」って。「ちゃんと自分たちで用意してきてるし自動販売機もあるから、そういう気を遣わなくても結構です。自分たちの楽しみを取らないでください」って。そういう人方もいる。早く家へ帰りたい、だから早く帰してくれって、これはひとつのバスでみんなが利用するってことについては、個々の要求ってのはなかなか難しい状況になるんだろう。そこはやっぱりそれであればタクシーチケットでも使って、早く帰られても結構だから、やっぱりこれからは利用者を増やす方向に我々一生懸命努力をする。ただし今言ってた月1回で足りないから2回出しなさい。これは遠方のバスも通ってないところは、双葉方面、静狩方面、これは2回にした。今2回にしたことによって、本当に2回出してくれると病院の薬も定期的にきちっともらえるから、非常にいいんですよね。だから今このままやってる。これ町の中2回を回っても、そうした話が出てくるのかな。もう少し各町内会の情報を我々が共有して、方法が変えられるのであれば、町民の利便性、高齢者のサービスに努めて改善することは可能だと思うんです。それはひとつ検討させてくれればいいなと。そしてまた、2回運行するってのは、これ経費の問題なんですよ。予算。今300万円くらいかかってるんだけど、これを運行回数増やすと、それがまだ経費が嵩んでくる。こういうことも踏まえて、だからタクシーチケットの有り様、整合性、それらも含めて、町の近い人がチケットでも使われて来られたら便利だし、双葉の人、静狩の人がタクシーで来て往復したら、2回も使えば終わり。そんな環境にあるんでね。できるだけ高齢者のサービスに努めるということについては、改善もやぶさかではない。そこら辺も十分町民の皆さんのご意見を伺いながら、各町内会の意見も伺いながら、移動町長室また話題が出たときにはそれなりの対応を考えていきたい。そう思ってます。

○議長（辻義雄） 以上で柏倉議員の質問を終わります。

村川議員。

〔議員（7番 村川毅）登壇〕

○議員（7番 村川毅） 私は1点について質問いたします。人口減少問題に取り組む「長万部町創生総合戦略」について。

人口減少問題は全国的な問題だと手をこまねているわけにはいきません。2015年に人口減少に歯止めをかけ地域活力を維持していくよう各種施策を掲げる「長万部町まち・ひと・しごと総合戦略」の策定・推進に向けた基礎資料の「長万部町人口ビジョン」を策定し、現在、2019年までの5年間の「長万部町創生総合戦略」を計画的に推進しています。「人口ビジョン」では、2040年に3,566人、さらに社人研、いわゆる国立社会保障人口問題研究所の人口推計が公表され、2045年には本町の人口が2,750人になるとされたことについては予想以上の減少に驚いております。

質問の1として、総合戦略では、5か年戦略の実効性を発揮するため、PDCAサイクルに基づ

く進捗管理、評価や検証に関する記載がありますが、実際の評価や分析においてのプロセスや実施状況についてお聞きします。また、5か年が終了した後、検証結果はどのように活かされるのか、町長の所見を伺います。以上です。

〔議員（7番 村川毅）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 人口減少問題に取り組む「長万部町創生総合戦略」についてご回答申し上げます。

ご質問にありましたとおり、「長万部町創生総合戦略」は2015年に策定し、2019年度までの5か年の戦略として、毎年PDCAサイクルに基づく進捗管理と評価、検証を行っているところであります。

1点目の実際の評価や分析においてのプロセスや実施状況につきましては、戦略は基本目標を達成するために明確な数値目標を掲げることとされており、施策ごとに期間の最終年度におけるKPIを設定した内容となっております。

また、このKPI等の検証にあたっては、毎年、施策・取組ごとに戦略・施策・取組について、PDCAにKPIを含めたプラン・施策の推進・評価などが記載された取組シートを担当課で精査のうえ作成し、検証機関としての「まちづくり推進会議」の地方創生部会において、KPI達成に有効かどうかの評価を行うプロセスで実施されているところであります。

2点目の5か年の期間が終了したあと、これまでの検証結果がどのように活かされるのかにつきましては、町では、2020年度から2024年度までの5か年を第2次長万部町創生総合戦略の期間として位置づけ、これまでの検証結果を踏まえ、本町の人口ビジョンを見直しながら、さらなる人口減少対策の強化を目指して戦略の評価・見直しを行い、次期5年間の総合戦略の策定に活かす考えであります。以上であります。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） それでは何点か再質を行います。団塊世代の子ども達、いわゆる団塊ジュニア世代が高齢者となるのが2040年、この超高齢化と人口減少の2040年問題で、政府は地方制度調査会に複数の市町村が連携する圏域のあり方を諮問しております。この1、2年中に答申が出ると思いますが、また、私たちが経験した平成の大合併といわれた十数年前のときのように、複数の町村で協議するよう国から押しつけられる時代が来ないとも限りません。そのためにも、医療・福祉・教育・就労の場確保、住宅問題など子育て支援の拡充や、環境の整備に向けて、長万部町独自の戦力を持って人口減少対策に取り組んでいかなければなりません。そもそも2014年11月に、「まち・ひと・しごと創生法」が成立し翌年の2015年に地方創生総合戦略を作ることが努力目標とされました。さらに10月までに作成すると先行型交付金が出るということで、長万部町は9月中に仕上げましたから、担当課は大変苦労したと思いますけれども、国が定めた4つの基本目標のほかに、長万部町はよその町にはない新幹線と、東京理科大学を加え、6つの基本戦略を立てたので、ある意味他の自治体に比べると有利な面があったかもしれません。私は昨年の9月議会において、地方創生総合戦略の評価・検証をした結果、まちづくり推進会議の委員からは、どのような意見・要望があったかという質問をしておりますけれども、答弁では、葛飾区との交流事業、新規就農者参画促進事業、空き家などの情報発信、防災体制の強化、高速道路通過客の呼び込

み促進。公共施設の効果的な維持管理と最適配置、アグリ事業などの取組について、目標達成に向けて今後も引き続き努力していくようにとの意見・要望が出されていると答弁をいただきました。この地方創生部会の委員の皆さんの指摘のとおり、まだまだ取組の戦略の途中ですけれども、この戦略で40項目からなるKPIを設定していますが、答弁では担当課において取組シートを精査しているとのことですが、最終年度を待たずに既にKPIを達成または確実に達成する施策があると思いますけれども、その主な施策をお聞かせください。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり新幹線課長。

○まちづくり新幹線課長（加藤慶一） お答えいたします。主なものということでございますので、まず戦略3の「地域経済を活性化し安定した雇用を創出する」では、地域の素材を活かした特産品開発と6次産業化の推進、こちらの取組で6次産業化を図るビジネスモデルの構築件数1件、という目標に対して、こちらが川瀬チーズ工房さんが生産・営業開始したことによる達成がございます。それから、戦略4の「新しい人の流れを作る」では、地域おこし協力隊の活用と定住化の促進の取組での地域おこし協力隊の定住人数目標1人に対し、2人の達成ができたこと。それから、戦略5の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」では、中学生までの医療費無料化の取組として、子育て世代の医療費負担軽減の継続がされていること。それから戦略6の「安心して暮らせる生活環境づくりや地域間の連携を進める」では、バス路線の確保・維持の取組として地域間幹線系統の確保・維持の3路線を継続できていること。同じく戦略6で「北渡島檜山北部4町連携の推進」の取組として4町連携での新規事業の創出目標が、目標値の1件を上回る2件を達成したことなどが、既にKPIを達成した主な取組でございます。以上です。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。人口減少問題に特効薬はありませんから、まず戦略を立てて、地道にひとつひとつ実行そして検証していくことが大事だと思います。

今日新聞に出ておりました「はしっこ同盟」も、やっぱり交流人口の増ということについては、大変貴重な戦略だというふうに思っております。そこで、KPIを達成した中で、今お聞かせいただきましたけれども、地域おこし協力隊の定住がありました。先日、協力隊の報告会がありました。で、その協力隊の皆さんのお話を聞く機会がありまして、3年の任期が終了した2名の方が町に定住するという嬉しい話を聞かせていただきました。長万部の人の良さ、優しさに触れてこの町に残って恩返しをしたいと話していたのが非常に印象的でした。もちろんこう言ってもらえるのは町の担当者やサークルの方々など、町の人達の多くの協力があつた結果だと思いますけれども、その方々がさらに空き家を利用した移住にも繋がるようですから、これこそが戦略の成功例だと思っております。そこで、この3年間の取組と、今後協力隊事業を継続するかどうか、最終的には推進会議で決定すると思いますが、今現在の町長のお気持ちを聞かせていただきたいと思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 先日協力隊の活動報告会あつて、結構皆さんお集まりいただいたことで、おかげさまで3人のうち2名が定住をするということが決定をして、その中で今回長万部本町にゲストハウスを開設をしたいということで、今協力隊員の1名が開設に向けて準備を進めている。ただ、いろんな諸問題の解決に今ちょっと時間かかっているのかなと思っておりますけれども。保健所の届出なり、建物の利用について再度しっかりやる。そしてまた所有者の大変な協力もいただいて、できるだけ早めに開所したいという、そしてそこから新たにまた情報の発信をしたり、長万部に人材を取り込んでいきたい、そんな話もございます。そしてまた、去年6月に新たに協力隊員を1名

長万部に入ってまいりました。協力隊員について、酪農の業態に入って一生懸命努力をされているということですので、今後もやはりこういった協力隊員が入ってくることによって、町の空気も変わってくるんだろうなと思っておりますので、K P I 評価達成後にまた募集かけて、今度はどちらの方の事業にむける協力隊員を要請していくのかということについては、今後も継続していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。協力隊が任期を終えて、この町で起業するということですので、ぜひ全面的な協力をしていただきたいなというふうに思っております。また、協力隊は、よその話を聞くと途中で辞めてよその町の協力隊になるとかという例がよくあるようですが、長万部町の場合は3人がともかく最後まで協力隊として頑張っていたいて、このたび任期を満了するということでしたので、先ほども言いましたけれども、皆さんの協力があつたからだと思っております。で、このうちの2人が残るということで、この2人は長万部に来てから結婚してるんですね。だから、2人が残るけれども結果的には4人が定住するということです。ですから、今彼らが発表で言ってた長万部町の人良さと優しさに触れて定住を決めましたという言葉言っていましたので、この人の良さと優しさというのは、これからの戦略のキーワードになるのではないかなというふうに思っておりますけど。町長どうですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変な表現をしてくれたんでありがたいなと思うんだけど。長万部の人の良さと優しさってのが彼らに通じたんであれば、それはやっぱり我々も真摯に受け止めて、常に人に優しい明るさに努めていきたいな、そんな形でおります。以上です。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。最後の質問です。総合戦略の基本的な考え方は、人口減少の問題とともに、地域経済の縮小の克服があります。戦略の中で、漁業の生産性の向上というのがあります。もしかしたら通告の内容とは少しずれるかもしれませんが、今町民が大変心配してる問題であります、町の地域経済に大きく影響するホタテの大量死の問題があります。この問題について現状と現在、町としてどのような取組をしているのか、もしお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今質問者からも通告外という言葉が出たんで、素直に受け止めて答弁させていただければと思いますけれども、新聞・テレビも報道されているとおり、噴火湾全域、それから最近になってから日本海の留萌管内、それから寿都の寿都湾もへい死が起きてるっていう状況が確認をされてきております。それで現在、出荷もやりながら耳吊りもやる。こういう形態なんですけど、まだ漁協さんでは調査中で、係数は全て出していないんですが、今まで以上に非常に悪い状況が確認はされております。10日、日曜日でしたけれども、午後からちょっと港の方に出かけて、組合員の方4、5人いたんで、1時間くらいちょっと話をさせて、殻の入ったバケツも見せてもらったんですが、もったいないくらい大量死してる。そして5月の中旬以降に耳吊りしたやつに非常に被害が大きい。まだ、2月からやって、5月の始め頃までやったものについては、水揚げはしてない。稚貝の状況は、各地域から持って来ただけでも、いい人で7割の人もある。悪い人は4割しか生存してない人もある。これひとつの養殖の技術の有り様というのも今後考えなければいけないのかなと思っていたんですが。昨年9月議会でお願ひして、補助事業を可決いただいて、取り寄せ

た道東の稚貝、これが90%を超える生存率。これが昨日ちょっと話聞いたら、4人とも「いやいやあれだけは間違いなく良い」って。これを大切に今年は耳吊りをして、来年の経営の糧になるという話をいただきました。どういう状況でその貝が現在の段階で良いのかってのは、これからずっとさかのぼって、去年の10月にここに運んだ時点までの経過から努めて、ずっとぼってって、どういう状況が今回へい死をしないで生存に繋がってるのかってことも調査するという事で、今漁協さんの方も取りまとめをして、その結果町の方にも報告あれば、各町も一斉に連携を取りながら、今後のホタテ養殖の有り様、対応、それから漁業経営のあり方ってものについても含めて、対応するという形になってるんだけど、まだ漁協さんの方がまとまってきてない部分があって、ちょっと足踏み状態なんですけど、生産をしながら、そして来期に向けての稚貝の入替をしながらの調査ってことなものですから多少時間がかかる。しかし例年よりは稚貝へい死状況が大きいってことだけは、ちょっとお伝えしておきたいなと思ってます。以上です。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ありがとうございます。終わります。

○議長（辻義雄） 以上で村川議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これで一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（辻義雄） お諮りいたします。予算審査特別委員会に付託された議案審査のため、明日13日と14日の2日間を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。

よって、明日13日と14日の2日間を休会することに決定いたしました。

なお、本会議は3月15日午後1時30分から再開いたしますのでご承知おきください。

◎散会宣告

○議長（辻義雄） それでは本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れ様でした。

10時42分 散会
